

女性の健康ナショナルセンター 設立に向けて

国立成育医療研究センター

令和6年6月11日

女性の健康ナショナルセンターに関連する提言

明るい社会保障改革推進議員連盟 提言(第2弾) 令和5年6月1日【抜粋】

1. 女性の健康支援

(4)「女性の健康」ナショナルセンターの創設

〈国立成育医療研究センターの拡充による「女性の健康」ナショナルセンター創設〉

女性の健康や疾患に特化した研究(基礎、臨床)、ビッグデータを活用した全国の研究機関・自治体の支援、企業等との連携の推進を図るため、司令塔となって中心的な役割を担うナショナルセンターを設置する。具体的には、妊娠と薬情報センターを含む国立成育医療研究センターの機能の大幅な拡充により実現する。

〈女性のライフコースを踏まえた調査及び研究(基礎、臨床)の推進〉

女性ホルモンが生涯を通じて大きく変化するという特性を踏まえつつ、調査及び基礎、臨床の両面について必要な研究を推進する。

〈女性向けデータの提供(治験等)〉

女性に特有な疾患や症状に対する治験等を推進する。その際、動物実験の段階で得られるデータの雌雄別のバランスを図ることが重要である。また、得られた知見をビッグデータにし、全国の研究機関が利用しやすいようにする。

女性の生涯の健康に関するプロジェクトチーム 提言 令和5年5月23日【抜粋】

○女性の健康科学(性差科学)の確立

①:科学的エビデンスの構築

- 「中間とりまとめ」においては、「女性の健康科学に関する研究開発拠点を整備」することを提言した。これに関連し、令和5年3月に公表された「こども・子育て政策の強化について(試案)」においては、女性が、妊娠前から妊娠・出産後まで、健康で活躍できるよう、国立成育医療研究センターに、「女性の健康」に関するナショナルセンター機能を持たせ、女性の健康や疾患に特化した研究を進めることとされている。

当該センターは、「性差を科学していく」ために公衆衛生学・医療経済学の観点を含め、学術的拠点となるものである。一方で、周産期前後だけでなく、女性の健康を総合的に診療する体制整備に必要な技術の確立、スポーツ選手など特別な健康状況にある者に対する介入方法の確立、医薬品開発時の女性に特化した薬効評価等の必要性、経産女性に特有な機能低下に関する知見の収集、女性の健康に関する専門人材の育成といった点についても取組を進める必要がある。こうした観点も踏まえ、若年期から早期に包括的に支援するためには、当該センターが、全国の先進的な機関との情報を含めたネットワークを形成し、それぞれの強みを生かしつつ、あらゆるライフステージの女性の健康について情報収集及び研究を進めることができる体制とし、総合力の向上を図る必要がある。

令和6年度当初予算額 **22億円** (ー) ※ () 内は前年度当初予算額

※令和5年度第一次補正予算額 5.4億円

1 事業の目的

・女性は、ホルモンのバランスの変化等により、ライフステージ毎にその心身の状況が大きく変化し、様々な健康上の問題等が生じるため、女性の健康や疾患について、心身における性差も加味し、ライフステージ毎に多面的・包括的な分析を加え、病態の解明と予防及び治療に向けた研究を推進する。

2 事業の概要

・国立研究開発法人国立成育医療研究センターにおいて、「女性の健康」に関する司令塔機能を担い女性の体とこころのケアなどの支援等に関するモデル的な取組の均てん化を行う。

実施主体：国立研究開発法人国立成育医療研究センター

3 事業スキーム・実施主体等

「女性の健康」ナショナルセンター

◆ 女性の健康に関するデータセンターの構築 ①

- ・ 医療機関や研究機関などの協力を得て、女性のライフコース毎のデータの収集・解析を行い、女性の健康に関する新たな知見を発掘及び臨床試験を実施するための基礎情報を収集
- ・ 収集したデータの解析やAI予測を実施し、新たなエビデンスを創出
- ・ 収集したデータを全国の研究機関・企業が活用できるよう、データ管理、提供を行う窓口を設置

◆ 女性のライフコースを踏まえた基礎研究・臨床研究の積極的な推進 ②

- ・ 女性の健康に関する調査・研究は多様なアプローチが必要なため、医学的視点だけではなく、社会学や経済学からの研究者を集め、包括的な取組を実施
- ・ 女性特有の疾患領域における治験等を推進するため、オープンイノベーションセンター等を整備
- ・ 女性特有の疾患領域の研究を実施する研究機関とネットワークを構築し、企業の治験に協力できる医療機関の紹介等の調整機能を整備

◆ 情報収集・発信、政策提言 ③

- ・ 「女性の健康」に関するWEBサイトや相談窓口を設置
- ・ 最新の研究成果について、積極的に情報収集・発信、政策提言

◆ 女性の体とこころのケアなどの支援等 ④

- ・ プレコンセプションケアの均てん化に資するモデル事業、調査研究、情報発信等を実施（プレコンセプションケアセンターの新設）
- ・ 産後の女性の体とこころのケアや子育てを支援し、安心して子育てができる環境（産後ケアセンター）の整備
- ・ 「妊娠と薬情報センター」の機能を維持して発展させるために、人材、設備、DXの拡充

創薬に向けた
共同開発・
治験参加医療
機関の紹介等

製薬企業

データの
提供・活用等協力医療機関
関係学会等

国民

相談・情報提供等

女性が人生の各段階で様々な健康課題を有していることを社会全体で共有し、女性が生涯にわたり健康で活躍できる社会を目指す

女性の健康課題について

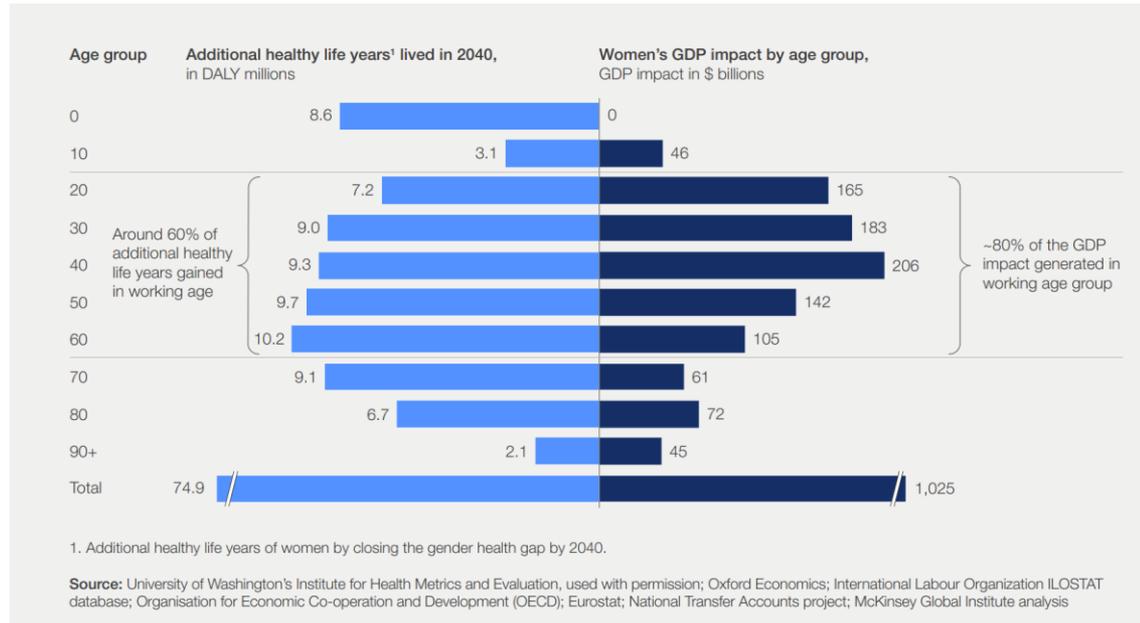
- ・ ライフコースに伴って健康課題が変わる（思春期、青年期、更年期等）
- ・ 女性特有のライフイベントである妊娠・出産の存在
- ・ 同じ疾患でも、男性と女性で症状や経過が異なる場合がある

近年の課題意識について

- ・ 働く女性の増加に伴うライフスタイルの変化
- ・ 高齢出産とハイリスク妊産婦の増加
- ・ ジェンダーによる格差

女性は、ライフステージ毎に心身の状況や社会的な立場が大きく変化し、様々な健康上の問題などが生じるため、女性の健康や疾患について、心身における性差も加味し、ライフステージ事に多面的・包括的な分析を加え、病態の解明と予防及び治療に向けた研究を推進することが必要である。

女性の健康課題に関する海外の報告



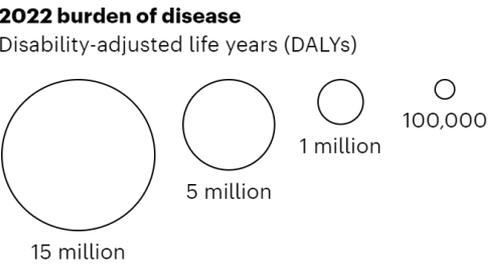
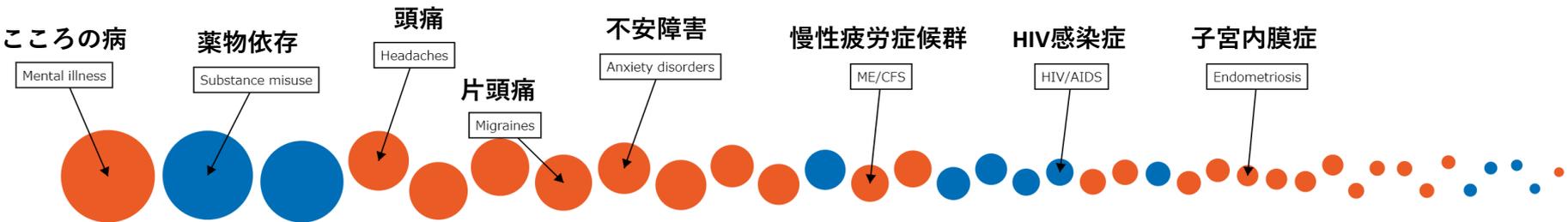
McKinsey Health Instituteの報告では、女性の健康上の課題に伴うGDPの損失は、特に労働年齢で高いことが示されている

Women's health research lacks funding – these charts show how

Conditions that affect women more than men garner less funding. But boosting investment could reap big rewards.

By Kerri Smith
03 May 2023

疾病による生活への負荷（DALYs）順に並べると、上位疾患の大多数を「女性に多い疾患●」が占める



● Female-dominant ● Male-dominant

負荷の大きさ
Greater burden ←

Here are the diseases ranked by burden.

<https://www.nature.com/immersive/d41586-023-01475-2/index.html>

The 2019-2023 Trans-NIH Strategic Plan for Women's Health Research

戦略目標1:研究

- 1.1 女性と男性の基本的な生物学的差異の探索
- 1.2 疾患の予防、発症、管理、転帰におけるsexとgenderの影響の調査
- 1.3 健康および疾病の転帰に対する曝露の直接的、中期的、長期的影響の解明
- 1.4 心と身体つながり、および健康と疾病への影響におけるsexとgenderの影響を探る研究推進
- 1.5 生殖段階や妊産婦・婦人科系の健康など、女性特有の状態や疾病に関する研究拡大

戦略目標2:方法

- 2.1 研究デザイン、データ収集、分析のための先進的で革新的なアプローチを拡大・開発し、データの質を最適化し、健康と疾病に対するsexとgenderの影響を検出力を向上させる
- 2.2 女性の健康に関連する信頼性が高く有効な測定法を開発、応用する
- 2.3 データの共有と分析戦略を含むビッグデータ事業を通じて、女性の健康に関する研究のための二次データソースを活用する
- 2.4 マイナーな属性を有する女性を臨床研究に包摂するための方法論を開発改良する

戦略目標3:普及と実施

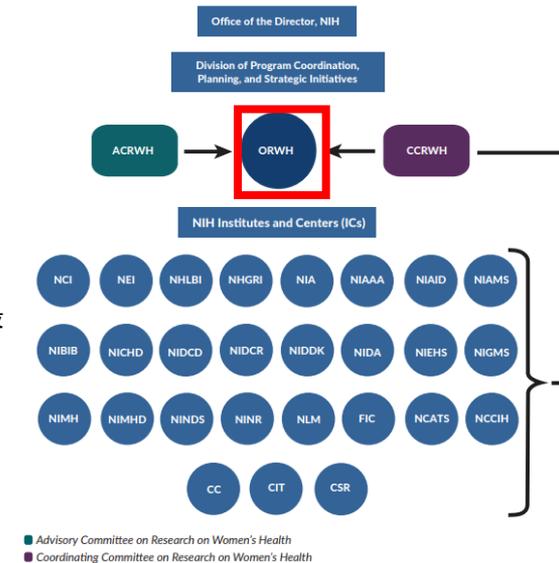
- 3.1 公衆衛生、臨床実践、地域社会におけるエビデンスに基づく介入促進のためのアプローチ立案、検証
- 3.2 女性の健康を改善する研究を普及させるために、協力の機会を探り、パートナーシップを活用する

戦略目標4:トレーニングとキャリア

- 4.1 すべての科学者、臨床医、その他の医療専門家の中で、健康と疾病に及ぼすsexとgenderの影響に関する知識を高め、その知識の実践への転換を加速する
- 4.2 女性の健康に関する科学を発展させる次世代の研究者を育成する
- 4.3 キャリア初期から指導的地位まで、研究キャリアのあらゆる段階において、女性を採用し、支援し、維持し、昇進させるためのプログラムを強化・発展させる
- 4.4 女性のキャリアを維持・向上させるための政策、指導、ネットワーク、協力、インフラを推進・支援する
- 4.5 生物医学キャリアにおける女性の定着と昇進を阻む障壁、および女性の定着と昇進を向上させるための介入策に関する研究を推進し、普及させる

戦略目標5:評価

- 5.1 女性の健康に関連する研究の特定を最適化する。
- 5.2 女性の健康増進のための追加研究の優先分野を特定する。



米国NIHの女性の健康部門（ORWH）は、他部門の「女性の健康」に関連した研究の司令塔機能を担う

女性の健康ナショナルセンターにおける4つの柱

「女性の健康」ナショナルセンター

◆ 女性の健康に関するデータセンターの構築 ①

- 医療機関や研究機関などの協力を得て、女性のライフコース毎のデータの収集・解析を行い、女性の健康に関する新たな知見を発掘及び臨床試験を実施するための基礎情報を収集
- 収集したデータの解析やAI予測を実施し、新たなエビデンスを創出
- 収集したデータを全国の研究機関・企業が活用できるよう、データ管理、提供を行う窓口を設置

◆ 女性のライフコースを踏まえた基礎研究・臨床研究の積極的な推進 ②

- 女性の健康に関する調査・研究は多様なアプローチが必要なため、医学的視点だけではなく、社会学や経済学からの研究者を集め、包括的な取組を実施
- 女性特有の疾患領域における治験等を推進するため、オープンイノベーションセンター等を整備
- 女性特有の疾患領域の研究を実施する研究機関とネットワークを構築し、企業の治験に協力できる医療機関の紹介等の調整機能を整備

◆ 情報収集・発信、政策提言 ③

- 「女性の健康」に関するWEBサイトや相談窓口を設置
- 最新の研究成果について、積極的に情報収集・発信、政策提言

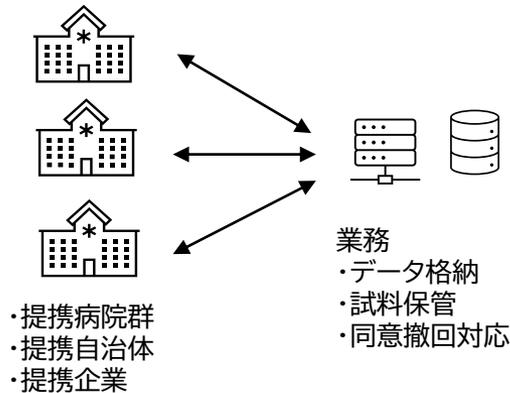
◆ 女性の体とこころのケアなどの支援等 ④

- プレコンセプションケアの均てん化に資するモデル事業、調査研究、情報発信等を実施（プレコンセプションケアセンターの新設）
- 産後の女性の体とこころのケアや子育てを支援し、安心して子育てができる環境（産後ケアセンター）の整備
- 「妊娠と薬情報センター」の機能を維持して発展させるために、人材、設備、DXの拡充

① 女性の健康に関するデータセンターの構築

全国の女性の健康に関するデータは、データが散在しているため利活用する研究者・企業が少ない。データ情報の可視化やクリーニング、統合IDの付与、データ提供窓口などの機能を一元的に担うことで、データの利活用を促進し、女性の健康に関する様々な研究推進を図る。

提携施設(病院・自治体・企業)からの
データ・試料収集



連携団体から収集したデータの共有・整理・格納

想定データ

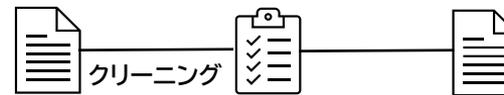
- 関連学会のデータベース
- NDB、政府統計等の公的データ
- 研究機関等の保有するデータ



データ可視化
データレポジトリ
モニタリング指標



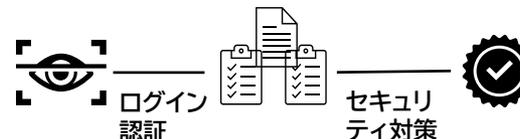
収集データの
クリーニング



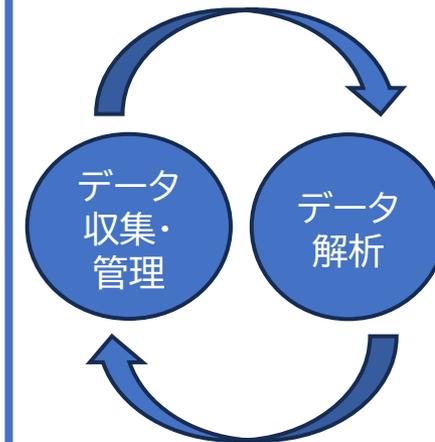
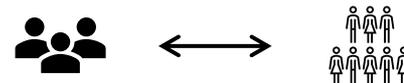
データベース
をつなぐ統合
IDの付与



アクセス管理・
セキュリティ
対策



外部へのデータ
切り出し・提供



② 女性のライフコースを踏まえた基礎研究・臨床研究の積極的な推進

ライフコースを踏まえた女性の健康課題のマッピング

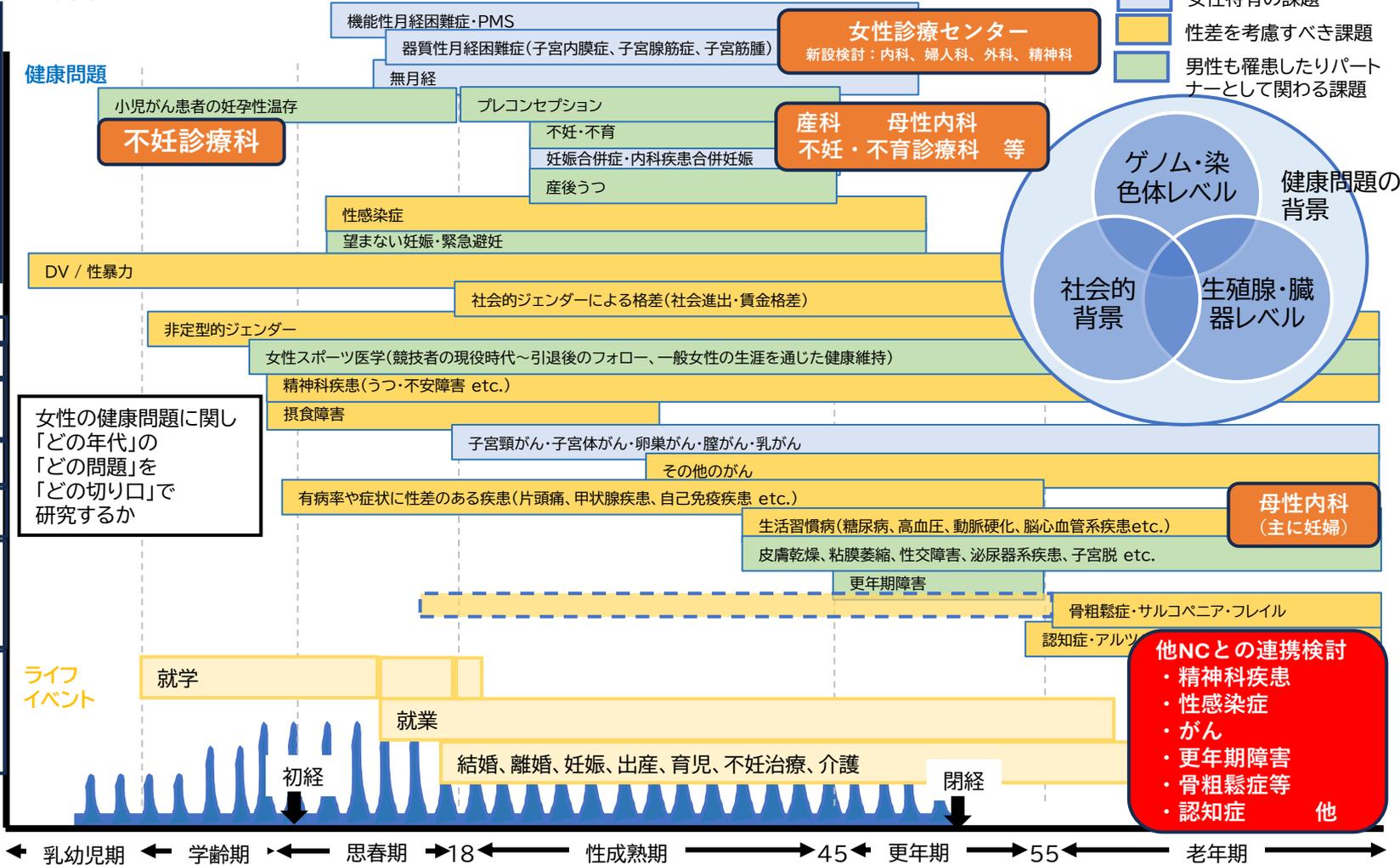
■ 成育内の担当科

■ 女性特有の課題
 ■ 性差を考慮すべき課題
 ■ 男性も罹患したりパートナーとして関わる課題

女性の健康問題とその背景

成育を中心に診療含めて対応

他NC, 他医療機関等と連携して対応



② 女性のライフコースを踏まえた基礎研究・臨床研究の積極的な推進

オープンイノベーションセンターによる研究支援と産学連携の推進

国立成育医療研究センター

病院と研究所が一体となり、健全な次世代を育成するための医療と研究を推進する

病院



生体試料収集

臨床情報収集

倫理審査

同意取得取得

情報発信

アドボカシー

研究所



基礎研究

応用研究

生物統計

データマネージメント

教育

政策提言

このシーズを「社会実装」につなげたい
医療課題を解決したい

「目利き」と「責任ある伴走支援」

オープンイノベーションセンター

共創と創発のための戦略立案と実務

企画戦略

調査・企画
戦略的な特許申請や技術移転
共同研究・受託研究管理
他組織との連携
起業支援
資金管理

知財

知的財産管理
契約・リスクマネージメント

治験

治験管理

オープンラボ
認証制度

人材マッチング・交流
リアルな交流の場
定期的な講習会
メーリングリスト

人・もの・情報の交換

企業



営利を目的として一定の計画に従って経済活動を行う経済主体

「窓口」と「(必要に応じclosedな)情報交換の場」

課題解決のため生体試料(血液など)や医療データ利用、エビデンス創出、実証の場が必要
「企業価値」を高めたい
医療従事者・研究者と企業がお互いの「社会的責任」を果たしたい
経済的価値に留まらない「社会的価値」を創出したい

③ 情報収集・発信、政策提言

女性の心と体の問題に寄り添うために、女性の健康に関する様々な情報を収集し、効率的・実践的な情報発信を行う。

発信・普及活動の内容

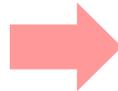
- 広報
- 他部門、他機関での適用支援

▼広報の方法

- 論文発表、学会発表
- WEBや医療メディア、マスメディアを通じた発信
- 自治体や医療機関への周知

▼適用支援の方法

- 教育プログラムの実践支援
 - 講師の派遣、育成
- 動画や冊子などによる教育コンテンツや教育ツールの提供
- 全国の相談支援窓口に向けた研修や後方支援



▼発信・普及のゴール

- 新しい知見や教育コンテンツの成果が、広く認知される
- 各主体が効率的に利用、実践可能な形で提供すること

一般国民

研究機関

医療人材

行政機関

医療機関

教育機関

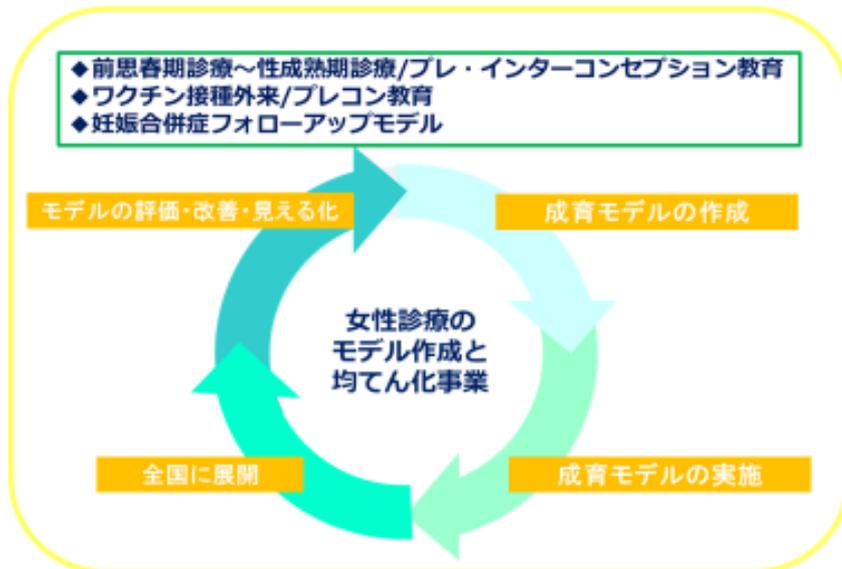
一般企業

④ 女性の体とこころのケアなどの支援等

「プレコンセプションケアセンター」「産後ケアセンター」「妊娠と薬情報センター」などの女性特有の課題に対する様々な機能を有する

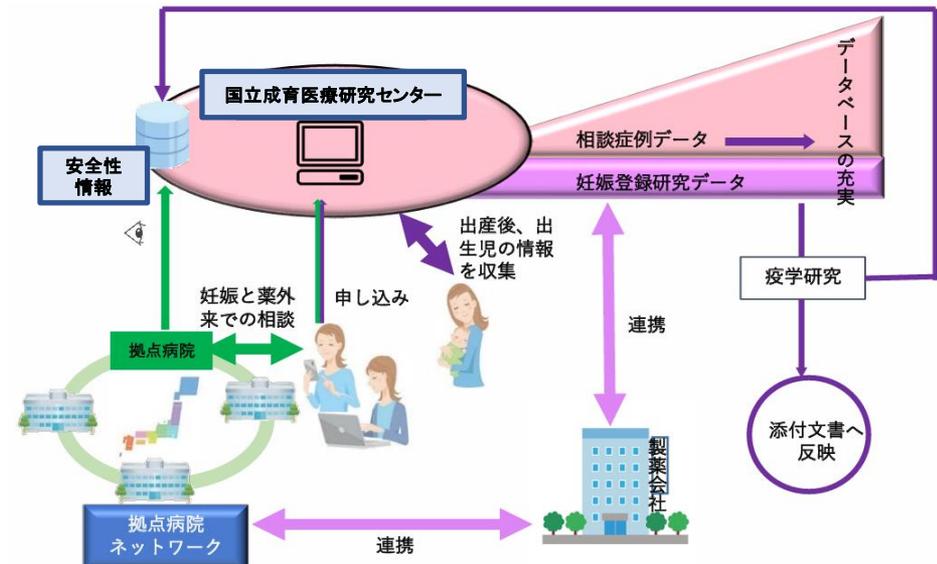
プレコンセプションケアセンター（拡充）

プレコンセプションケア(将来の妊娠のための健康管理)に関する知識の均てん化や、妊娠出産に向けた相談・検診やカウンセリング、妊娠合併症のケア、次子の出産に向けた支援(インターコンセプションケア)などを行う。



妊娠と薬情報センター（拡充）

15年以上にわたり、妊娠・授乳中の医薬品使用による胎児への影響に不安を抱く女性に寄り添った相談業務やエビデンス創出、国民や医療従事者への情報発信、医療従事者への教育研修などを行っている。



④ ‘健康課題を抱えた女性への支援窓口の創設

国・自治体、NC、全国の医療機関や関連学会等と連携し、診療を支援する体制構築や、女性の体とこころの悩みに寄り添った相談等を検討する。

関連学会との連携

公益社団法人 日本産科婦人科学会
Japan Society of Obstetrics and Gynecology

わが国の女性の健康のために

女性と生まれてくる子どもたちの幸せのために、産科学および婦人科学の進歩・発展を図るとともに、産婦人科専門医の育成に努め、人類・社会の福祉に貢献します。



一般社団法人 日本女性医学学会

理事長ご挨拶 / 学会概要 / 活動状況 / 専門医・専門資格制度 / 学会雑誌・刊行物 / 入会のご案内

全ての女性にとって「最良」であることを考え続けて。



日本性差医学・医療学会
The Japanese Association for Gender-Specific Medicine



ポータルサイトによる情報発信

女性の健康推進室

ヘルスケアラボ
HealthCareLab

※厚労省の事業として
東京大学が実施中

ライフステージ別女性の健康ガイド

すべて表示 小児期・思春期 成人期 更年期 老年期 妊娠・出産

<p>みんな悩んでる 月経のトラブル</p> <ul style="list-style-type: none"> 貧血 月経痛 月経不順・無月経 <p>生理痛のセルフチェック</p>	<p>女性に多い からだの不快感と病状</p> <ul style="list-style-type: none"> 肩こり・首こり 甲状腺の病気 乳腺症、乳房痛 <p>乳がんのセルフチェック</p>	<p>人に相談しにくい デリケートな悩み</p> <ul style="list-style-type: none"> 性暴力、デートDV 性感染症(STD) 摂食障害(拒食、過食) <p>不眠症のセルフチェック</p>
<p>これで大丈夫? 小児期の気がかり</p> <ul style="list-style-type: none"> 喉が閉じる? 乳幼児の乳房発育 <p>一覧</p>	<p>こどもからおとなへ 思春期って何</p> <ul style="list-style-type: none"> 思春期は第2の誕生 思春期が早い(思春期早発症) 思春期が遅い(思春期遅発症) <p>一覧</p>	<p>思春期に多い からだの不快感と病状</p> <ul style="list-style-type: none"> 思春期のやせ ふらふらする・疲れやすい 過敏気症候群 <p>一覧</p>

相談窓口の連携と支援

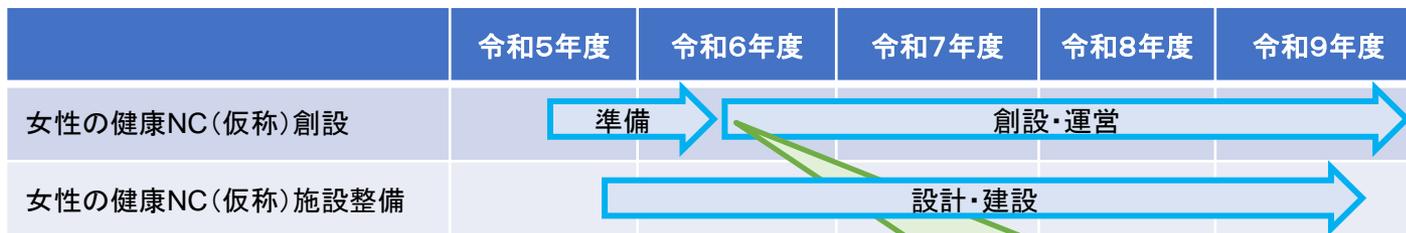
例) 性と健康の相談支援センター事業

女性の健康に関する医療連携と総合的な診療体制の構築

女性の健康ナショナルセンター(仮称)の創設について

女性の健康ナショナルセンター(仮称)の創設に伴い、新たな組織を構築し、現行の「4つの柱」を軸に、女性特有の疾患や性差医療に関する研究開発等を推進することを目的とする。

女性の健康NC(仮称)創設にかかるスケジュール(案)



開所式、シンポジウム等の開催

関係機関の連携について

関係省庁、6NC及び関係団体の意見を求めながら、女性のwell-beingに貢献し、Biopsychosocial(身体的・心理的・社会的)に女性の健康支援を推進していきたい。

參考資料

国立成育医療研究センター概要

1. 設立

- ◇平成14年3月1日
国立成育医療センター開設
- ◇平成22年4月1日
高度専門医療に関する研究等を行う独立行政法人に関する法律（平成20年法律第93号）に基づき設立された非特定独立行政法人
- ◇平成27年4月1日
国立研究開発法人 国立成育医療研究センターへ移行

2. センターの行う業務

- ① 成育医療に関する調査、研究及び技術の開発
- ② 上記①の業務に密接に関連する医療の提供
- ③ 成育医療に関する、技術者の研修の実施
- ④ 上記①～③の業務に係る成果の普及及び政策の提言の実施
- ⑤ 上記①～④の業務に附帯する業務の実施

3. 組織

- ◇ 研究所
- ◇ 病院
- ◇ 臨床研究センター

4. 役職員数

- ◇ 役員数（令和6年4月1日現在）
常勤 2名 非常勤 4名（うち監事2名）
- ◇ 職員数（令和6年4月1日現在）
常勤 1,487名 非常勤 445名

5. 病院の規模

- ◇ 病床数（一般）490床
- ◇ 患者数（令和4年度実績）
 - ・ 入院患者数（1日平均） 389.0人
 - ・ 外来患者数（1日平均） 937.9人

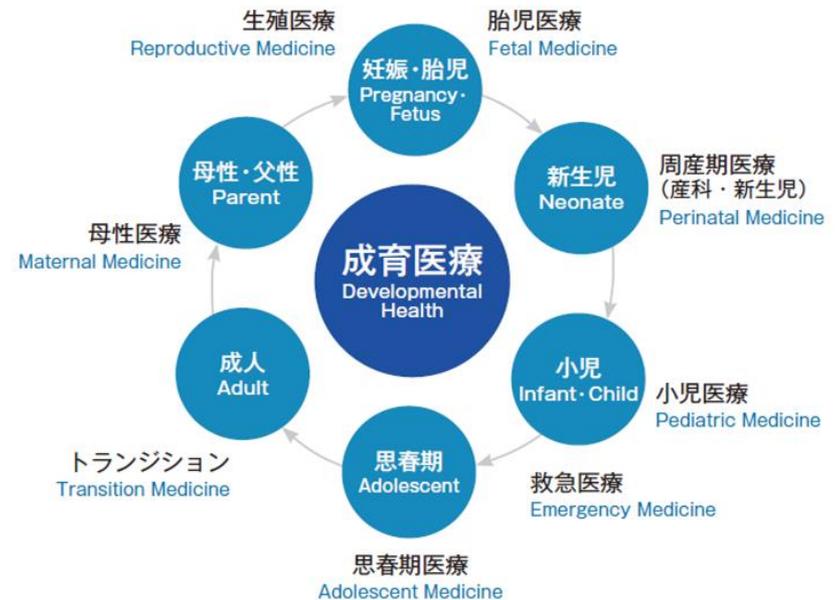
6. センターの理念

病院と研究所が一体となり、健全な次世代を育成するための医療・健康と研究を推進します。

7. センターの基本方針

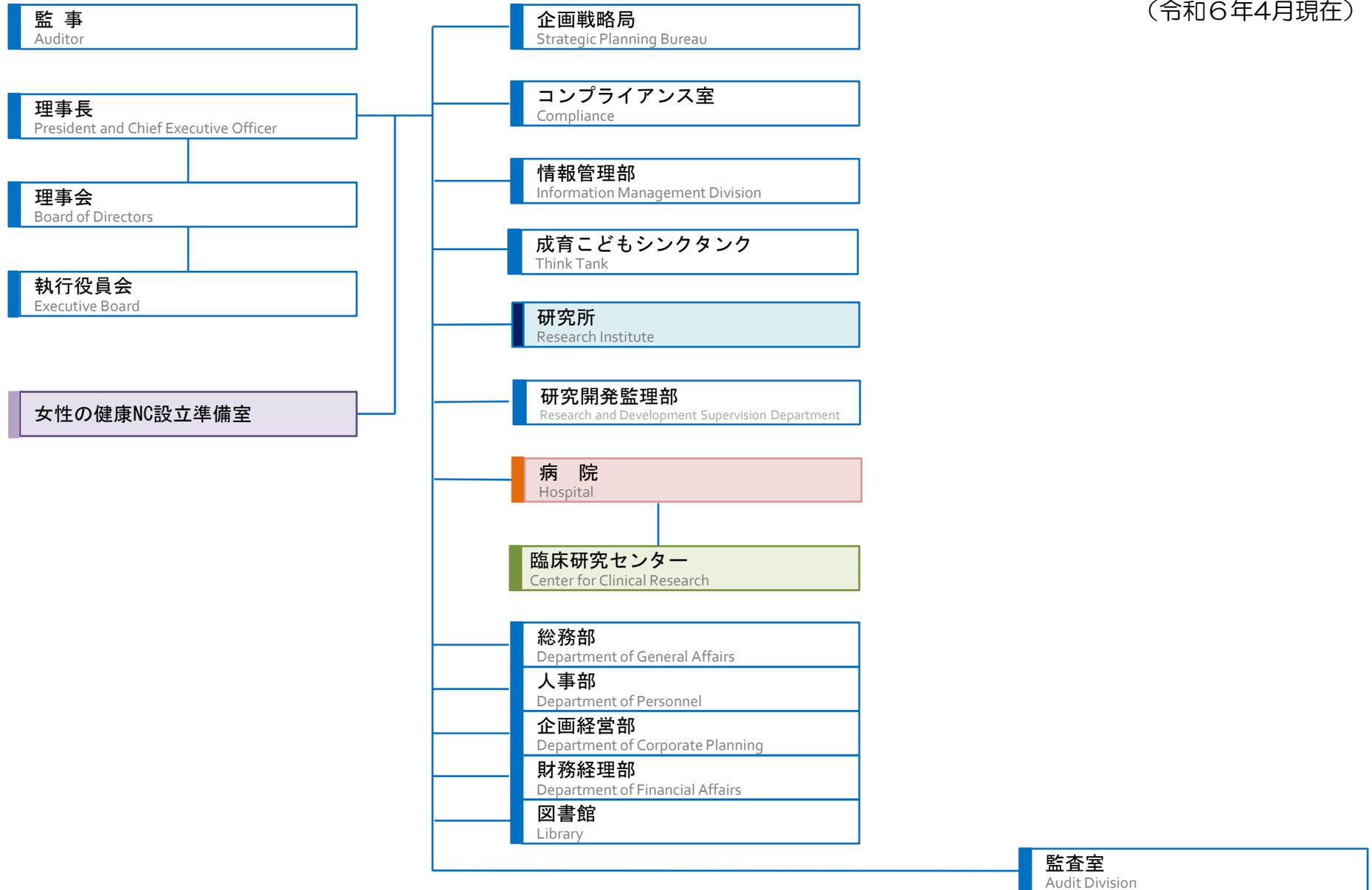
- ① 成育医療のモデル医療や高度先駆的医療をチーム医療により提供します。
- ② 成育医療の調査・研究を推進します。
- ③ 成育医療の専門家を育成し啓発普及のための教育研修を行います。
- ④ 成育医療の情報を集積し社会に向けて発信します。

小児・周産期医療を担う我が国最大の医療研究センター



国立成育医療研究センター組織図

(令和6年4月現在)



女性の健康ナショナルセンターに関連する政府方針・提言

- 女性の活躍促進や子育て支援の観点から、「骨太の方針」や「こども未来戦略方針」などにおいて、国立成育医療研究センターに「女性の健康」に関するナショナルセンター機能を持たせ、女性の健康や疾患に特化した研究及び女性の健康に関わる最新のエビデンスの収集・情報提供を行う仕組みを構築することとされている。

1. 経済財政運営と改革の基本方針2023(骨太の方針) 令和5年6月16日 閣議決定【抜粋】

第2章 新しい資本主義の加速

4. 包摂社会の実現（女性活躍）

DV対策、性犯罪・性暴力対策、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律の円滑な施行、事業主健診の充実、フェムテックの利活用やナショナルセンター機能の構築を含めた女性の健康支援、WPS等により女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会を実現する。

2. 女性の活躍・男女共同参画の重点方針2023(女性版骨太の方針2023) 令和5年6月13日 政府決定【抜粋】

Ⅲ 女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会の実現

(5) 生涯にわたる健康への支援

④ 「女性の健康」ナショナルセンターの創設

女性の心身の状態は、年代によって大きく変化するという特性があり、性差医療の視点も持ちつつ、長期的、継続的かつ包括的な観点に立って健康の増進を支援することが必要である。国立成育医療研究センターに「女性の健康」に関するナショナルセンターとしての機能をもたせるとともに、全国の研究機関等の支援のため、我が国の女性の健康に関する研究の司令塔機能を構築する。また、「女性の健康」に関わる最新のエビデンスの収集・情報提供ができる仕組みを構築する。【こども家庭庁、厚生労働省】

3. こども未来戦略 令和5年12月22日 閣議決定【抜粋】

Ⅲ-1. 「加速化プラン」において実施する具体的な施策

2. 全てのこども・子育て世帯を対象とする支援の拡充

(1) 妊娠期からの切れ目ない支援の拡充 ～伴走型支援と産前・産後ケアの拡充～

○女性が、妊娠前から妊娠・出産後まで、健康で活躍できるよう、国立成育医療研究センターに、「女性の健康」に関するナショナルセンター機能を持たせ、女性の健康や疾患に特化した研究や、プレコンセプションケアや産後ケア事業を含む成育医療等の提供に関する研究等を進めるとともに、基礎疾患のある妊産婦や妊娠を希望する女性等に対する妊娠と薬に関する相談支援を進める。また、2022年度から保険適用された不妊治療について、推進に向けた課題を整理、検討する。